

凡 例

- 一、この図録は平成二十七年四月二十五日から五月三十一日までを会期として開催する長野市立博物館特別展「信仰のみち 善光寺・戸隠・飯縄・小菅・斑尾・妙高」の展示図録として作成した。
- 一、本書の掲載順と展示の順序は必ずしも一致しない。また掲載資料のなかには、展示されていないものもある。
- 一、掲載資料のうち、国宝は●、重要文化財は◎、県指定文化財は◆、市町村指定文化財は▲で示した。
- 一、上越教育大学の浅倉有子氏（五〇八頁）、大津市歴史博物館の寺島典人氏（一五五頁）、妙高市教育委員会の佐藤慎氏（六四〇六八頁）より賜った玉稿を掲載した。
- 一、本書掲載資料の写真是、御所蔵先から借用した写真のほかに、次の個人並びに機関より御提供いただいた。
妙高市教育委員会（六三、六九〇七八頁）、遠藤公洋氏（七九〇八二頁）、飯山市ふるさと館（八四〇八五頁）、川島印刷（一〇六頁）、長野県立歴史館（一〇七頁）、竹下欣宏氏（一一三頁）。
- 一、また本書掲載資料の写真は一部、高久良一氏および松本正光氏に撮影を委託した。
- 一、本書の各章・項は当館学芸員 原田和彦が執筆し、作品解説は原田および専門員 宮澤崇士、妙高市教育委員会・佐藤慎氏が分担して執筆した。
- 一、展示構成は原田が担当した。
- 一、本展示に関連して、企画、資料収集、写真撮影、写真提供などで多くの個人並びに機関から援助を賜った。巻末に記し、感謝の意を表する。

※飯縄の名称については、現在発行されている国土地理院の地図では、山の表記を「飯縄山（飯綱山）」、町名は「飯綱」としています。本展では、現在最古の年紀を持つ松代・永福寺蔵の《銅造飯縄大明神像》（応安二年・一三六九）の刻銘「□繩大明神」、及び佐久市安養寺蔵の『信濃安養寺年中諷経回向』（修正満散疏）、応永十六年・一四〇九年紀）中の「飯縄大明神」という記述を尊重し、「飯縄」の表記を採用します。

展示のかけ橋 ―北信濃と上越をつなぐ―

二〇一五年、いよいよ新幹線が東京と金沢を結ぶこととなりました。そして、この中間地点にあるのが、北信濃・上越ということになります。新幹線の延伸によって、北信濃と上越はより緊密な地域となりました。

長野県と新潟県の県境であるこの地は、文化的に深い関係にありました。この展示では、信仰をめぐる文化財を取り上げて、その特質を浮かび上がらせましょう。

北信濃で著名なのは善光寺です。また、善光寺とともに戸隠神社への信仰もよく知られています。戸隠信仰とともに、飯縄信仰も取り上げる必要があるでしょう。

目を北に向けてみますと、新幹線沿線には、飯山の小菅神社、信濃町の斑尾山信仰と関係した即心院、そして新潟県に入っては、妙高山を信仰の対象とする関山神社があります。

これらは、深く関わりあいながら個々の信仰を保持してきたのです。

新幹線が金沢まで延伸した年、そして善光寺御開帳の年、こうした記念すべき年に、関東の善光寺信仰から解きおこし、そのうえで、長野駅から妙高高原駅までの新幹線沿線の信仰の宝物をめぐることで、この地域の特性に触れられたらと思っております。

最後になりましたが、展示開催にあたりまして、ご宝物、ご所蔵の作品の出陳をご快諾いただきました御所蔵者の皆様、そして、展示の構想段階からご教示いただいた諸先輩方に、心よりお礼申し上げます。

目次

展示のかけ橋	3
特別展開催にあたって	5
I 善光寺信仰と武家社会	11
1 古代の善光寺を見直す	12
2 武士の時代と善光寺信仰	20
3 善光寺信仰と女性	35
4 善光寺信仰の広がり	41
II 戸隠信仰・その繁栄	45
III 妙高山信仰・関山神社の宝物	63
妙高山の信仰と関山神社	64
IV 文化的景観の地・小菅	79
V 飯縄信仰とその広がり	89
1 飯縄神社と飯縄信仰	90
VI 斑尾信仰	113
2 上杉氏・武田氏と飯縄信仰	101
3 飯縄信仰の広がり	109
主要参考文献	117
謝辞	118